

平成維新の会から30年

代表 小俣 一郎

当会の前身である「平成維新の会」が産声を上げたのが平成4年11月25日。当会の活動はついに30年を超えることになりました。そこで少しこれまでの歩みを振り返ってみたいと思います、と当会の歴史について少し書こうかと思いましたが、5年前の生活者通信226号（2018年1月1日発行）で「平成維新の会から四半世紀」のタイトルで25年間の振り返っていましたので、今回は一連の歴史を振り返るのは止めました。立ち上げから25年間の簡単な歴史はぜひ会報226号を改めてご覧頂ければと思います。

平成30年からの5年間の多くは、まさしくコロナの時代でした。会報242号（2020年10月1日発行）の「26年目に入りました」で新たな活動の可能性として「オンライン会議」に触れましたが、このコロナ禍でオンライン環境は一段と進化し、いたるところで「オンライン」は一般化しました。

30年前、平成維新の会はその活動に「パソコン通信」を取り入れて活動の幅を広げようとしていました。私も友人から中古のパソコンを購入し、パソコン通信を始めようと思ったのですが、当時は電話回線で、活動を行えば行うほど巨額の電話料金が発生するため、その利用を断念したということもありました。現在は定額で無制限。まさに隔世の感があります。

「たれば」になりますが、発足当初の、あの勢いがあったときの平成維新の会に現在のようなオンライン環境があったなら・・・、と改めて思う今日この頃です。

☆

このコロナ禍も3年目。世の中が少しその対応に慣れてきたこともあり、会場を借りることができたので、7月には3年ぶりに総会を開催することができましたが、現在も委員会活動の主流はオンライン会議です。

当会では無料で長時間行うことができるのでスカイプを利用していますが、画面を共有することで資料等を共有することが可能です。インターネット委員会では、画面共有で操作方法と一緒に確認することもでき、またインターネットを使っていますので途中で何か疑問点が出てきてもそれをその場ですぐに調べて解決することもできます。勉強会の会場にパソコンを運ぶ必要もなくなりました。オンライン会議は実にインターネットの勉強会に適したものであると実感しています。

道州制実現推進委員会・道州制推進連盟については、道州制議論自体が下火のため残念ながら現在活動は低調ですが、オンライン会議であれば居住地に関係なく参加できるので、議論が再び活性化した際には全国レベルでの意見交換等ができればと思っています。

委員会の中で異色の活動を始めているのが「21世紀のライフスタイルを考える会」です。

飲食店の営業が戻り始めたこともあり、ライフスタイルの会ではオフラインの会合を再開しているのですが、その場にパソコンを持ち込むことでオンラインでの参加も可能になっています。オフラインとオンラインの融合により、これから新たな形で活動が進みそうです。まさしく、これこそが21世紀のライフスタイルなのかもしれません。

☆

さて、話は少し脱線しますが、日本の活躍で今回のサッカーのワールドカップは大いに盛り上がりました。そして、全試合が地上波で放送されることはなかったのも、地上波放送されなかった試合を初めて「ABEMA」で見ました。ABEMAは今回64試合すべてを無料で生中継していました。

また先日、新宿に用事で出かけたついでに紀伊国屋書店に寄ってカレンダーを購入しようとしたのですが、お目当てのカレンダーはすでに「完売」になっていました。そこで慌ててネットショップで探したところありまして、無事に購入することができました。

コロナ前にはよく博物館等に行っていたのですが、活動を再開したところもまだまだ予約が必要で、また入場制限もされています。そこで「ニコニコ美術館」でいろいろな展覧会等を訪問しています。

コロナ禍の3年でインターネット環境はさらに充実しました。これまでネットショップ等々をほとんど利用していなかった私もこの3年でかなり使うようになりました。そして確かに便利です。

この巨大に広がったインターネットの世界にはいろいろな可能性があります。当会の活動にうまく利用できるものを探し出し、活用していければと考えています。